



LINE



Twitter

人権について考えよう⑤

日本で最初の人権宣言「水平社宣言」

市民の皆さんと一緒に人権問題を考えるため、シリーズで掲載しています。

■問合せ…教育総務課 (☎025-545-9220)

水平社宣言とは

1922(大正11)年3月3日、京都市にある岡崎公会堂に部落差別に苦しむ人々が全国各地から集まり、差別からの解放と人間としての自由、平等の権利を自らの手で取り戻そうと「全国水平社」が創立されました。その創立大会に参加した約3千人の前で読み上げられた宣言を「水平社宣言」といいます。

自由と平等を求めて

この宣言には、いわれなき偏見や差別に苦しむ人々の気持ちを世の中に知らせるとともに、全ての人々にとって自由で平等な社会を実現するための内容がうたわれています。

全国水平社の「水平社」は、「人間は生まれながらにして平等な存在である」という理念から名付けられ、宣言の最後に書かれた「人の世に熟あれ、人間に光あれ」という言葉には、「人間を尊敬し、大切にしよう」という願いが込められています。

水平社宣言は部落差別からの解放だけでなく、あらゆる差別からの解放をめざしていることから、「日本で最初の人権宣言」「日本で唯一の人権宣言」ともいわれています。

先人の思いを受け継ぐ

市内の小中学校では、人権教育などの授業で水平社宣言を学習しています。市民の皆さんにも水平社宣言に込められた思いを知っていただくため、教育委員会では11月15日(日)からオーレンプラザほか2カ所でパネル展を計画しています。詳しくは広報上越11月号に掲載します。

来年、全国水平社が創立されて100周年を迎えるに当たり、いま一度、日常生活の中で互いを認め合い、尊重し合う行動を実践しているか、振り返ってみましょう。

宣 言

全国に散らばっている我々差別をうけている人々よ團結せよ。長い間、いじめられてきた仲間たちよ、明治になって五〇年の間、平等だといわれても、実際はそうではなかった。同情やあわれみでは差別はなくなるのだ。このことを思えば、今、我々自身から、人間を尊敬することによって、自らの自由と平等をもとめる集團運動を起こすことは、当然のことである。

仲間たちよ、我々の祖先は自由と平等を心から求め実行してきた者であった。厳しい支配政策の犠牲者であり、たくましく社会や文化を支えてきた者であった。心を引きさかれるようなどんなにきびしい差別の中でも、人間としての誇りは失わなかった。そして、今、その犠牲者の我々が差別を投げ返す時がきたのだ。

我々が、差別を受けてきた者であることを誇りうる時がきたのだ。我々は、自分自身を低く見たり、臆病になつたりして、これまでたくましく生きてきた祖先をはずかしめたり、人間の尊厳をおかしたりしてはならない。人の世がどんなに冷たいか、人間を大切にすることが本当はどんなことであるかをよく知っているからこそ、我々は、心から人生の熟と光を求め、その実現をめざすのである。

水平社はこのようにして生まれた。
人の世に熟あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月

水 平 社

出典：外川正明氏提供

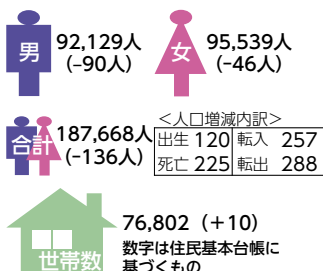
広報対話課から

(☎025-526-5111)

●「広報上越 11月号」は、10月21日(日)・22日(月)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和3.9.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：みんなが大好きな給食の時間

この日の大潟町小学校の献立は、「夏の暑さに負けない献立」をテーマに、子どもたちが考えた献立の中から校内投票で選ばれたカツカレーで、「夏の暑さに勝つ!」「コロナに勝つ!」という願いが込められているそうです。大きな口でおいしそうに食べる姿に、取材中のこちらも思わず食べたくなりました。

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。